

【事務局】 開会のあいさつ、会長あいさつ及び各委員の紹介
委員総数9名全員の出席により会議が有効に成立することの確認

【事務局】 緑の審議会についての説明、議事進行を会長に依頼

【渡邊会長】 春日井市附属機関等の設置等に関する要綱第10条の規定に基づく会議公開の説明

傍聴者が1名あることを報告、傍聴者入室し傍聴席に着席

本日の議事録署名者に波多野茂委員を指名

報告事項について事務局に説明を求める

【事務局】 資料に基づき説明

【渡邊会長】 事務局の説明について、質問、発言を求める

私のほうから1件、保存樹とか保存生垣の数や面積が多少減り気味というのは年数が経って古くなってきて枯れてしまうとかですか。

【事務局】 それもございますし、ご高齢の方も見えて管理が難しいといった諸般の事情がございます。

【渡邊会長】 年数が経ってそれらしき木に育って、新しく選定されるような木もあるわけですね。ここ直近で今まで選ばれてなかったけれど、これは保存樹として残しておいた方がいいねというような樹木は春日井市内に結構あるのですか。

【波多野茂委員】 市内には、まだたくさん保存樹でないが立派な物があるけれど、多分保存樹は個人の持ち物で保存してもらわなくていいと、いわれた人がいるということだと思うが、市で指定した保存樹が段々減っていくというのは、枯れるのはそんなに多くないが、区画整理などによって相当無くなりました。もう少し残す、小さな公園でもいいからその場所に造って残すというようなことになっていくといいと思います。春日井市の皆さんは木に対してあまり関心が無いと素人目で見ると思えます。ひとつ例を挙げますと、金ヶ口池の水が落ちる横にちょうど昔は、そこに淵がありました、その池の水面からちょっと北側に入ったところに大きなクロガネモチがありますが、その周辺の東向きの斜面を伐採されて、その木を片付けもせずクロガネモチに乗せたものから、日陰になってクロガネモチが大分痛んでしまいました。

春日井市内で庭に選定されたクロガネモチは沢山ありますが、自然の形で残っているのは3本しかありません。岩舟神社の境内と金ヶ口池ともう一本が落合池の堤防です。そういった自然の形をしたものを何とかして生かしておけばいいですが、心無い周辺の伐採によって大分傷んでしまった、苔むした立派な木でした、惜しいなと思います。

それから、大留城址の碑のところにな大きなケヤキがありました、なくなりました。また、子安神明社の南の広場の保存樹のクロガネモチも切られました。その跡に何か造られるかと思いましたがそのままです。保存樹になったらできる限り保存していくというのもなく、邪魔だと切ってしまうということを感じます。

【渡邊会長】 これは保存樹ですよと、一般市民が見て分かる様な状況になっていますか。

【波多野茂委員】 看板がしっかり付いています。

【渡邊会長】 例えば保存樹の選定に当たっては、基準がありますが、周りの市民の皆様のご意見とかご希望もあるでしょうし、逆に保存樹になると厄介だから止めておいてくれとか、反対意見もあるという感じもいたします。その辺の意見なんかは、やはり公園緑地課の方でいろいろ意見を聴取しながら、やっているという感じですか。

【事務局】 個人の所有物でありますので、選定等も所有者にお願いしており、市が進んで選定する状況ではございません。お任せして保存していただいている状況でございます。

【稲垣重男委員】 私は造園協会という形で今日来ておりますが、今のお話を聞くと成る程なという事があります。要するに前回も言いましたが、保存樹であってほしいその家の人の周りの人の協力が無いんですよ。葉っぱが落ちて秋になれば朝晩掃いてもどうしようもないという意見が出てきて、そこの保存樹の持ち主は皆に迷惑をかけると言う事で、剪定をしていかななくてはならない。今の時代は言ったもの勝ちで、役所も困っていると思います。私ども業者としては、やれといえやるし何もいわれなければ黙って見ておるといった形が多いです。やはり認識不足が多いです。

【渡邊会長】 私も市内に住んでおりますけれども、600本もあるわけですからね。

【波多野茂委員】 春日井市の保存樹で大きい物は少ないです、伊勢湾台風で無くなってしまいましたから。特に数少ない貴重な物は、保存樹でなく天然記念物ぐらいにしてもらって、皆に関心を持ってもらって守っていくと、また、謂れのある木もあります。昔ここに皆集まって、ちょうど田植え前になると溝浚えをして、木の下にシートを敷いてご苦労さんと一杯やったという話はよく聞くんです。そういうやつは、残していきたい。

【渡邊会長】 まあ色々なんて言うんでしょうか、春日井市は、ちょっと外に対して、ちょっと寂しいですね。広い意味で観光と考えた時に、市全体の魅力みたいなもののPRの一つの手段みたいなことで、使えるものがあればどんどん使っていくべきじゃないかなと、私自身は思っているんですけど。ただ、

春日井市だけじゃなくて、単独でやるというのは難しいですよ。周辺には犬山だとか瀬戸だとか多治見などの、いろんな意味で歴史伝統のある町がいっぱいある訳ですから、こういう所と一緒にやるとか。すばらしい木があるのであれば、春日井市だけに限らずそういうところとも連携しながら、土地の大切な財産だと思いますので、きちっと守っていくように市民の意識の改善改革を図るような意味でももう少しPRした方がいいかなと思うんですが、よろしくをお願いします。保存樹でお話しましたが、ほかの事で何かありますか。

【伊藤建治委員】 保存樹につきましては、一時まで補助金みたいなものを出しておりましたが、廃止になりました。やはり先ほどの話をお聞きしますと保存樹を維持していくのに、手間隙とお金がかかってくるという点では、出している時には、そうたいした金額ではなかったんですけど、その手間隙に対する気持ち程度の補助金というものは、支払ってもいいのかなと思いました。緑化振興基金については、ちょっと前まで運用益しか活用できない条例内容でしたが、条例改正で原資も活用できるようになりまして、今回繰出金として約3百万円ほど使っていただいた経緯がありますけれど、この使い方をしていても百年近く持ちますので、もうちょっと緑化振興あるいは、保存樹の方にも繰出金を使ってもいいかなと私の意見を申し上げました。

【稲垣重男委員】 伊藤市議員が言われたように、問題は保存樹を持って見える家の負担が多いんです。市の方から補助金をもうちょっと出してやってくると、それから波多野さんが言われたように、保存樹というだけでなく、もっと大きな意味で大事にするという何かいい文句を作って、皆にPRしていただくと、そうするといい認識をしていただけると思うんです。今までは、お金は無くなってしまった、苦情は出るわで、何とかしてよと言うのが現状なんです。やはりそれなりに市もしてあげないと。それから、保存樹ですけど波多野さんよく研究してみえるけれど、私たちはプロの視点で保存樹でありながら、これは危ないぞと、この間も木が倒れて2人ぐらい亡くなったということもあるので、出すものは出して、切るものは切って、いいものは育てていくようにしていかないと、只ここで議論していても何の進展もないと、業者からすると思えるわけです。

【渡邊会長】 個人持ちばかりですか、全てが個人持ち。

【稲垣重男委員】 保存樹で個人持ちでないのは、お宮さんにあるとか、お寺さんです。先ほど剪定云々と言われましたが、やはり毎年木という物は、ある程度大きくなったら剪定をしてやらないと、台風が来たときに倒れたり2次災害が起きるといふこともあるし、木という物は私たちが剪定をするとき何の為に剪定をするのかと言うことが、皆さんあまり分からないと思います。木は茂っておれば緑の為にいいですが、枯れ枝がでできます。剪定するとき風通し

が良くて、日当たりが良い様に剪定してやるんです。そうすると木が生き生きしてくるんです、そういう意味合いもあります、只剪定して坊主に切ってしまったではプロとしては恥ずかしい話ですが、ちゃんとそういうふうにしていかないと。我々が例えば、春日井造園協会でそういう講習をしたことが無いんです、木の剪定の講習とかは無いんですが、そういうものを市の方で仕込んでもらって、今はベテランの木を切れる人が殆ど無いんです。シルバーがどんどん蔓延ってきてやっていると何れは枯れるんです。そういうのが多いと思います。

【宮崎了諦委員】 私、市民公募の宮崎と申します。現在、落合公園の中の果樹園がございます。15種類の木と約150本ほどの木の管理を平成22年度の3月に市と合意書を交わしまして、名城クラブという名前で管理をしています。今年名城大学の農学部の中で2年間実習しました生徒が32名おりまして、15名が卒業式で、この18日が授与式なので顔を出してきたのですが、現在41名で構成しています。それで、市制70周年記念の一環として去年の11月に名城クラブ団体として表彰され、市から感謝状をいただきました。さっき助成金と言う一つの問題が出ましたけれど、今会員から年会費として千円ずつ、これで賄っております。木の方の下草刈は、全部自前の各自がある人が持ってきて刈っている、ガソリンも全部燃料費も自前持ちです。一昨年から市にあります福祉協議会の方に申請をしまして、ようやく3万円程の助成金をいただいております。これが今年もいただけるかどうか分かりませんが、そういうことで助成金は殆ど一切ありません。そういう形の中で、今年の3月11日に昔植えてあった木の枯れた物をようやく補充していただきました。梅の木が40本位あるんですけれども、これを剪定しまして、それから木の方の枝の範囲だけは全部下草刈をしております。外の方につきましては、市の方から草を刈っております、そういう状況で肥料の方も市からいただいて、申請をしまして施しております。それから剪定の時の脚立も申請するんですが、剪定の時の脚立じゃなくて、4本足のが来てかえって危ないんです。それが申請する方より受ける方が内容を知らないという感じがしています。肥料を撒くものですから、今度は草が伸びまして大変なんです、大体150本ある木を刈るのが。大体二月ぐらい刈るのに掛かるんです草刈だけでも、刈った草と剪定したものは全部市からゴミ袋をいただきまして、それを集めて持っていただくということをしているんです。やっぱり助成金が欲しいなど、それから頂いた助成金につきましては、領収書を取りまして、いちいち市に申請しなくても、欲しい肥料を買ったりしたいんです。名城大学の授与式に行きまして農学部の部長さんとお話しまして、今、果樹と蔬菜と花の3つの構成された中で市民が勉強しているんです。その中で顔を利かして花を取りにくる人がいらっしやると、生徒だから嫌という事が言えないが、実は5円か10円で買ってもらうと

学校の方も助かるんだがなあという声も聞いてくる。それから剪定の方につきましては、果樹をやっている人たちが皆してやっているわけですが、もう少し目を向けて欲しいなと思っているんですが、なかなか目を向けていただけないと言う様なことがありまして、ちょっと辛い思いをしているんですけれど。一番近くの中で梅が小学校の生徒が毎年花が咲きますと、鑑賞会がありまして私達やボランティアの人達が説明をしたり、梅の実を小学校の子達と一緒に採って、それから秋には栗を採りましてね教育の一環の努力をしている訳なんですけど、もう少し春日井市の落合公園の中の果樹園というものに、もうちょっと目を向けていただきたいと思っているんですが、こんな席で私が申し上げるのもおこがましいと思うんですが。

【渡邊会長】 いやいや、そんな事は無いと思いますよ。

【事務局】ほんとに名城クラブさんには、アダプト制度と言うボランティアでお願いしている訳なんですけど、本当に管理をして頂きまして感謝をしている次第でございます。この場を借りてお礼を言いたいところでございます。春日井市の方もアダプト制度という全くボランティアなんですけど、そういった形でお願いしている所が名城クラブさんと、もう1件岩成の方で公園でやっていただいているのがある訳ですけど、市の方としても何とか補助とまでは行かないにしても、協力は出来る分はして行きたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

【宮崎了諦委員】 また、よろしく申し上げます。

【渡邊会長】 今、アベノミクスで経済情勢上向き何ていう感じもありますけれど、其れがなかなか地方にまで及ぶのは、まだ時間が掛かるかなという感じがするんで、市の財政も大変厳しい状況だと思うんですよ。だから結局こういう市の中を活性化して行こう、綺麗にして行こう、皆で住みやすい町にして行こうとなると、なかなか市民の皆さんも色んなそういう意味でのボランティア活動みたいなものが、どうしても中心に成らざるを得ないという状況なのかなと思うんですが、本席には、市会議員の先生が3名出席されてお見えになりますので、委員の皆様方も日頃感じておられる事は、是非この場でご会心いただいて、市の行政の中へ色々反映していただける様に、また色々お話をさせていただけたらと思います。稲垣さんどうですか。

【稲垣暁永委員】 私も、この会を3年程出ているんですけれども、やはり専門的に携わってみえる方なんで、ご意見を聞いていると、こういうことに対して市の方もこうした審議会があつて、いつも検討するという事である訳ですね。そうするとそれを、何か具体的にやって行かなければと言う所にいくと、皆さんのご意見と言うか、補助的なものとかそういうものを、こういった指定しておいてあるけれども、それは指定をされておるだけでそれに対して、そのもの

を管理するべきものとなると、ちょっとこの話は進まない、いつのときでも。それがこちらからも出る問題だけれども、ちょっと私は立場が違いますので良く分からないで、聞かして頂いておると言う事で3年程が過ぎました。けれども本当は、もっと少し踏み込まないと、このままでは今言ったけれどもそのまま、新たにこういう事をするならばと言うこと、これは、ここには委員の方々もお見えになるんですけれど、そういった事をどの部分から進めていくかという、そういうふうな事には僕はずっとこの3年間は、聞いていても自分に対案と言うか対策というものが出来ないうし、ただお聞きしとってそうすると当然何かしないと、このままだと結局は保存樹なんか指定してしまわんでいいと、ほっとしてもらった方がいいとか、また、若しくは保存樹である以上なんかそういうふうにしてあるものを持つと大切にしなければと、管理してみえる方がその指定された方々が、むしろそうされた事によって、自分達がきちっと管理しなければいかんじゃないかという事を言われることで、指定して欲しくないとか、外して欲しいと現実にそんな声を聞くんですよ。だからそういう事を何処へそのものを持っていくとかその問題を、そして方向性を出さないと。今の様なお話を僕は、2年3年前から同じ事を聞いていて一向そこは進んでいかない。自分も分からないでただ聞く側に回ってた、ここ3年間ですけれど、おっしゃる事は、お二方特にですけれども、そういう所については、鋭く言われるんですけれど、聞かれる側の例えば事務局でもそうですけれど、そうかなと言ってもそれ以上具体的になって行かないという所に難しさがあるんだろうとは思っています。

【伊藤雅恵委員】 時代は流れていって、去年私がここで言わせてもらった事と、私がこの1年過ごして来て感じたのは、例えば葉っぱが邪魔だから如何にかして欲しいといわれた時代というところがあって、その方たちは高度成長時代に勇ましくやってきて一所懸命やらなくてはいけないという姿を叩き込まれた時代の人たちが、とにかく毎朝自分の周りは葉っぱは、一つも落ちていてはいけないふうに躍起になってた方たちが、もう自分達が毎日出れなくなって、それで如何にかして欲しいと言われた時代だったと思うんですね。だけどまた時は流れて去年も言わせてもらったんですけど、私の子供たちは街路樹が毎日目にする豊かなものの一つなんですけれどもでも、紅葉するのは見ずに育てしまったんです、ていうのは切られてしまったからなんです。今多くの方が熟年層の人が外へ出て、改めて春日井が故郷感が無いというのをたくさんの方が感じられていると思うので、また、見直しの時代に来ていると思うんですね。だから葉っぱが気になっていた人達も、やっぱり家の中にいて遠くの観光地に行きたいんだけど、四季折々の美しさを見れないというのを、目の前に樹木があるのに切ってしまったが為に紅葉も見れないという反省の時期に来ている

んじゃないかと思って、やっぱり苦情があったからこういう対策に出ましたという時代があっても、また、それは何年か経ったら見直すべきだと思って、やっぱり言ったもん勝ちの世の中ではあるけれども、今付加価値、目に見えない価値というか、そういうことが若い人達を中心にまた流れが変わってきているので、是非、街路樹は紅葉するまでとって置いていただいて、市の方からは最新の掃除道具みたいな、よく名古屋の方では見かけるそういった兵器をもって、格好良く勇ましく早く、交通の邪魔にならない様なそういった対策を採って貰うとか、人の力、竹箒をたくさん町内会に寄付していただくとか、そういったやっぱり今までとは苦情の面でも変わって来ているんじゃないかと言う所に、ちょっと耳を傾けてもらって、薄墨桜は一本だけでも花が咲くから皆が集まってきた大切にするんですよね。多分保存樹は花も実もならないのが多くあるんじゃないかと思って、保存樹が2百年3百年もしてあるというのは、私がたまたまこれで検索したから、そんな立派なものがそれぞれのお家の所に眠っているんだということが分かったんですけども、市の方から診断料といいますか、木のお医者さんというんですか、造園業の方とかがみえる樹木医の方を各家庭に市のお金で派遣していただいて、ちゃんと毎年チェックをしていただいて、それは各家庭の方は全然資金の心配も無くてっていうぐらいして行くのと同時に、自分の町内にはそういうのが在るんだという事を、お知らせマップみたいな感じで、市の方からゴミマップだけではなくそういった春日井のマップ、緑のマップみたいな物を作っていただけると、やっぱりホームページとかパソコンを開くと一杯出てくるんですけど、すごく沢山ありますね写真も。でもあまり日常の広報とかでは、なかなか見つけられないので、やっぱり春日井マップがあればいいなと思います。

【渡邊会長】 春日井のホームページには載ってるんですか。

【事務局】 はい、一部保存樹とかは載っています、住所と本数、写真も一部載っています。

【伊藤雅恵委員】 AゾーンからEゾーンまであって、ホームページには載っています。

【渡邊会長】 皆さんが、興味のある人が一杯出てね、薄墨桜まではいかないにしても、名古屋あたりからちょっと見に行こうやと、来れる様な雰囲気を作るということも大切でしょうね。それからちょっと今お話があった街路樹を葉っぱが黄色くなる前にみんな落としちゃって、どうもその紅葉が見れないというのは、台風の加減ですか。

【事務局】 落ち葉の関係です、地元住民の方の要望が非常に強いということがありまして。ニュータウンの方でも色んな意見がありまして、今年なんですけれどニュータウンのサンマルシェから北へ行く通りが一本あるんですけど、

そこの所のナンキンハゼについては、結構紅葉するものですから何とかして欲しいという強い要望がありまして、ギリギリまで延ばして、切ったという箇所もございます。やはり凄く地元の落ち葉に対する苦情が多いものですから。

【稲垣重男委員】 街路樹の問題は、これは私ら本職ですから市の財産を切っておるわけですけど、従来は大体紅葉してから切ったもんです。最近では今の話で葉っぱの落ちる前に切ってくれと、盆が過ぎたらすぐ切ってくれと、こういう要望が多いんです。住宅がある所はそういう住宅の人の苦情なんです、畑のある所はいいやないかなと思うと、これがまた苦情が出るんです。種を撒いても葉っぱが落ちて芽が出ないと、こういう苦情が出るんです。だから私達はどっちに付いてやら分かんず。そこらのとこを市の方で行政で上手にね、先程言われた様に。私は大留町という所に住んでいるんですが、大留町は環境美化の会という会がありまして、公園を毎月第一日曜日に草取りをやるんですよ。下大留の公園へ来て頂くと、綺麗なもんです、草が殆ど生えてません。だから、住民の皆さんがそれだけ認識するような指導をしていただければ、結局やる気になれば皆がやってくれる訳です。そういう事じゃなくて反対のほうに回っちゃうんです、切ってくれな困るぞと。そういう様な事で私達は言われた通りやるよりしょうがないのでやっておるんですが。十年ぐらい前にその緑道で造園屋が皆出て私が見本的に切りましようかと切った、こういう風にやりましようよと相談して、よーいドンで始めたら、わーっと住民の方が出てきて、あんな切りようでは意味がないと、もっと切れもっと切れと結局、すっぽんぽんに切っちゃうと、こういう事なんです。業者としては板挟みで遣らざるを得ん訳ですよ結局。今日も市会議員の先生みえるけど、先生方が住民が何とか言うからもうちょっと切ったってくれよとなれば、切らざるを得んですよ。そこらのとこが、視点がちょっと違うんですよ結局、そうじゃなくて環境美化の会みたいなもんを各町に作らせて、そういう所にはお金も掛かると思います、補助金も出さないかんと思います。

【波多野茂委員】 街路樹も今後考えていかないかんと思うんだが、樹種にもよるわね。電線が走っている下に大きな木を植えても頭摘まなならんし。

【稲垣重男委員】 それとですね、春日井市は区画整理が大分終わりましたよね。区画整理がちょっとみそだったね、ということは、区画整理をやる時にその要するに都市計画道路、何々道路、バイパスを造った時に、今、波多野先生言われるように樹種を考えて植えなんだ訳です。その時に何も分からずにやった、私は分かっているもんだからそんなの駄目だって、区画整理の役員やってたんですよ。そういうのは駄目だと言っても、理事長以下皆が其れがいいぞで、市役所から指導員で来ている役員に駄目だと言っても、彼もそっちのほうにし

ちやうから私なんか区画整理でよく喧嘩したもんですけれど、結局はそれだけ認識がないです。

【渡邊会長】 色々お話有難うございます。今までのお話を伺ってですね、議員の先生が3名おみえになりますので、市の行政をやっておられる委員の皆さんのひとつお話を伺いたいと思います。鬼頭委員どうでしょうか。

【鬼頭委員】 私は始めて参加させていただいたんですけれど、稲垣さんがおっしゃったように視点が違うと、これは全くまとまらないということです。私は朝宮に住んでおるんですけれど、緑道なんか市民の方は早く切れ、早く切れと葉っぱなんか有っちゃいけないと。結局我々田舎に始めから住んでるもので、紅葉よく見てきた人が多いもので今更葉っぱが落ちたらかなわんということです。よく業者の方と話をするんですが、こんなもんばか切ったのか、切るならもっと、同じ切るならお金使うならもっと切ってくれというご意見も多いもので、ちょっとこれは視点が違うもので、やはり視点調整をしていただかなければ、なかなか議論が噛み合って行かない、もう少し整理整頓がないと議論が前に進まないような気がいたしました。

【渡邊会長】 佐々木委員どうぞ。

【佐々木委員】 今の鬼頭委員と同じ様な話になると思うんですけれど、やはり各町内に住んでる自分の地域での協議が必要かなと、その中で公園、街路樹分けて考える必要があるのと、やはり今新しく入ってきた方というのは、枝は早く切って欲しいというのは聞きます。前高齢者がおった所というのは一人でも黙々と片付けられる、まあ座って一日やっていれば自分の周辺でも片付くという方もみえるし、やはり協力というのはやっていかなければならない、となると日頃から出来るグループ、さっき言った様にやはり造園屋さんが入ってこの植物に対してはこういう切り方とか、全く知らない人が公園管理しているのも現実ありますので、各地域の公園見ると垣根の高さが不揃いで、あそこまで切っちゃうとその内に枯れて無くなるだろうというぐらい思いつき、高い枝は難しいところもあるんですけれど。後もう一つは四季も大事ですけど、今後は温度が上がってきてますから、昔は日傘という物がありましたけれども木がその代わりをしていたんじゃないかなと、空きすぎでは意味が無いというのは今、僕もそうやって聞かれば命あるものですから、そうやって説明して地域を順番に作っていくしかないのかなと。推進ですといってもピンと来ないと思います、昨年その前とずっとやられて全く変わってないと言うのであれば、一個ずつでも一つずつでも、まず公園からとか地域からとかいう形で、僕らも議会の方で取り上げてもいいかなと。あまりサボテン、サボテンばかりではいかんかなと思います。

【波多野茂委員】 要望ですけど、出来る限り郷土の木を使ってもらいたいなと思います。一番付きもいいし潜在的な自然と言うのは郷土の木を持ってくるのが本来だと思うんですが、どうしても日本人は洋物が好きなんですね、舶来もんが、だからすぐに舶来もんには飛びついちゃうんです。歴史を見ましても万葉時代に中国から梅が入って来た、そうしたら桜を放って置いて梅ばかりです。万葉集見ても梅は119首も歌われている、ところが万葉時代過ぎてきますと今度は桜に戻っています。そういう風で一時的に皆舶来物を好むが、本来はやはり郷土の物が主だと思うんです。今の公園を見ますと洋物ばかりです、この前の四ツ谷の公園を見ましても周りに有るものは、洋物が多いです。ずっと何処の公園を見ても郷土の物が植わっておるのが少ないです、むろん入ってはいませんがけれども主に洋物が入っておる、出来る限り郷土の物をやっていくのが本当だと私は思うんですよ。植える物は、まず土地に合うというより気候に合うという物が肝心、日陰にある物と日の照る所にある物と、陽と陰という物を分けて考えなくちゃならんと。最近何故だか、カクレミノが用いられているが、カンカン照りの夏になると枯れちゃいます、牛山の公園、この前の所にも1本カクレミノが植わっている、なんら日陰の無い所に。木が気の毒だなと思うもう一つは、あまりにも距離が短すぎる、寄せ植えというところなものでしょう。ヒラドツツジがよくやられるが、こんなもので、ヒラドツツジは放って置いたら大きなものになる、だからもう一寸寂しくていいと思うんです。段々大きくなりますので、5年ぐらい経ったら良い位になったなという気持ちで植えた方が木は、伸び伸びするんですが、キューっと狭く植えちゃうもんだから、夏に水やらんと枯れちゃう。手入れも大変ですので、出来た時は寂しくて、そして段々と良くなっていくぐらいの気持ちでやらないと。出来た時これは立派だといったら、これはもう2、3年経ったら込んじちゃって、木が気の毒になっちゃう、枝を突っ込んじちゃってね。そんな事が出来んもんかなと、私は感じるんです。それからもう一点、保存樹から木の事ばかりになりましたが、落合公園の管理棟からフォーリーにかけての池側の水辺の傍の通り道に桜が植わってるんです、去年植えられたんですが、あれは一寸不味い様な感じがするんですけど、感じませんか。

【事務局】 ベンチの近くの桜ですか。

【波多野茂委員】 桜は周りに大きなものがずっと、あれは昭和10年のやつが残ってます、2年のやつは消えましたんですが、それから順番順番に植えられたやつで周りには大きい株立ちに成った様な形になってます、ソメイヨシノですね。その後に植えられたやつは、公園になってから植えられたやつは、それでも大分大きくなったんですが、内側、池の淵、池の水辺の歩道の所にも、ずーっと植わるとるし、植えられたんです去年。あの間隔もおかしいし、あそこ

に植えちゃうと実際花火の時に見えんようになっちゃいます、花火が。皆芝生の上へ来て観覧するんだ、これの前にずーっと有る、大きかったら花火が見えん。それと間隔が狭いがね、この前も測って見たら一番狭いところが3メートル、桜の木3メートルで植えたら1.5メートルしか片方の枝出ませんよ、それで突っ込んだら枯れますよ、だからやっぱり、ゆとり持った植え方。それと、ずっと見渡してここは花火やる所なら、花火やるには観覧席から前に木がどーんと立ったら見えん様になっちゃう、そういう事も考えてもらわなかなんと思っている、要望ですよ。それからもう一つ落合公園のことで言うと、魚類も関係しますけれどハスは、あんなものは外来ではない日本の魚なんですけれど、貴重なもんだで採らん様になんて看板立ててありますけれど、ハスはこれは、日本では滋賀県と京都府だけなんです。各所に釣り屋が持って行ってやるもんだから、あれは他の魚食っちゃいますよ、ハスという奴は。それからもう一つ有る、井戸、落合池の本当の水、綺麗な水の入るところが無い、入ってつり池からすぐ北側から水が落合池へ落ちるけど、すぐ小学校の向こうから降りるから水が動かせん、特に管理棟の所の池の水の動きは全然ないんです。やっぱり昔の落合池は、ずーっと水が上池で温めて回って、下の池に落ちてまた回るように出来ていた、昔の人はちゃんと考えて水が絶えず動くように造られた。今は一番東の北側から、ぽんと入ると一番西の北側からびよんと抜けるぎしなんです。だからこっちの方水は全然動かん、だから井戸で少し補うようになった、その井戸が止まって一寸も動かないんですよ、もう何年になりますか。やっぱり、もういっぺん水を汲んで流すように直してもらいたいと思います。昔は深井戸掘ると掘り抜きって言って、水が自噴したんですけど今はね、高度成長から自噴はしなくなっちゃった、春日井市でも四百八十何本有るでしょう深井戸が、それだから汲み上げるより他にないんです。モーターを直して水を流してもらいたいと思うね、少しでも一番動かん所に水をやらないかんと思うんです、愛知用水も入らんから、そんなことを思います。それからもう一つ今度は質問ですかど、鉾山の方ですけど、美濃碎石はこれでもうやらないですか。

【事務局】 あの場所では、採石事業としてはやらないと聞いております。

【波多野茂委員】 終わりましたね。

【事務局】 はい。

【波多野茂委員】 それから、小西生コンですが去年までの春日井採石、これってものすごく取るようになったね、昨年から名前が小西になって、昨年よりも二百三十万トンぐらい多くなったね、また山がどーんと枯れちゃいますね。春日井の採石場皆ですが、内津は大体山一つ無くなっちゃたんですが、無くなった後どういう風になるか知りませんが。他所の同じこれは尾張から美濃にかけての一部分がずっと良い硬砂岩が採れる訳なんで、この砂岩を採って鉄岩

なんかは粉になっていかんが、チャートは採らないもんで、ちょうど谷底から稜線にかけて採っていくんだが、絶壁型の採り方なんです、垂直なんです。けれど外の所を見ると考えとるなという所が有るんです。これは垂直に近いが法面が入っているんです途中で、法面入れとくと其処にちゃんと赤松が生えてくるんです。赤松はそういう所が故郷なんです、外の木の寄り付けん所に生えるのが、外の木にすぐ負けちゃうからそういう所へ赤松は生える訳なんです。だから採って段々捨てていっても林が出来てくるんです、木が止まって赤松が生えたり、ツツジが付いたりリョウブが付いたりしてそういう木が茂ってくる。春日井の採り方は絶壁で全然止まる所がない、だから何時までも採った跡が絶壁で裸なんです。そういうやっぱり少しずつ法面付けてやっくと、そこに木が止まってくれるんです。なんかそんな様なふうに指導出来んのかね。

【事務局】 計画書を見ますと多分ベンチカットで2メートルぐらいの小段を付けて下げる様に成っている筈です、近場へ行って見ると小段は付いています。

【波多野茂委員】 成っていますか、最近入れてもらえんもんで、よく分からんでかんけど。昔は自由に入っていて、おいおいとやれたけれど。

【事務局】 ある程度の高さになったら段を付けてます、私も詳しいことは分かりませんが。

【波多野茂委員】 なんか採り方が荒い採り方だと思うんです、出来る限り緑が付いてくれて、赤裸で景観が全く悪い。特に外之原近所は一面があれですね、何とか緑が戻って行く様なやり方をしてもらいたいし、採った跡ほったらかしにならん様になんかして行かないと。外之原から入っていく昔やっとな所ほっからかしに成って、なんともしょうがない格好で有るんです。

【渡邊会長】 有難うございます、色々貴重なご意見を頂戴いたしておりますけれど、時間も大分過ぎておりますので。緑地課としてはですね、今色々な方から色々なご意見が出ましたけれど、ひとつの意見にまとめて行くというのはなかなか難しいですよ、しかしそうかと言って、ほっとく訳にも行かないんで、市民の皆さん方が納得されるような形で調整して頂くのが緑地課のひとつの仕事かなと思いますので、その辺大変だろうと思いますが、是非前面に出て色々ご調整頂きながら、市民の皆さんが気持ちよく住んで頂けるような街づくりの拠点として、少し奮闘、奮励努力をして頂く、こんな事かなと思います。また、色々な難しい問題が出てくればこの審議会を随時開いていただく事も可能でしょうし、3名も市会議員の先生方がご参加でございますので、市の行政の思いも反映させて頂けるとい状況にも成っておりますので、また、是非ひとつ宜しく願いしたいと思います。こんなところで宜しゅうございますでしょうか、有難うございました。ずいぶん長時間に渡りまして貴重なご意見頂きました、これで審議の方は終了させていただきます。

上記のとおり春日井市緑の審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、議長及び出席者1人が署名及び押印する

平成26年3月28日

議長 渡邊 誠

署名人 波多野 茂